

松尾鉦山や岩手の冬山などを描いたことで広く知られる盛岡の画家佐々木一郎の回顧展。冬景色をはじめ、中津川河畔や盛岡の町並みなどの風景画から静物画までを展示し、その足跡を辿ります。本展は佐々木家の全面的なご協力を得て開催します。

ギャラリートーク

平成25年 2月5日(火) 14:00~

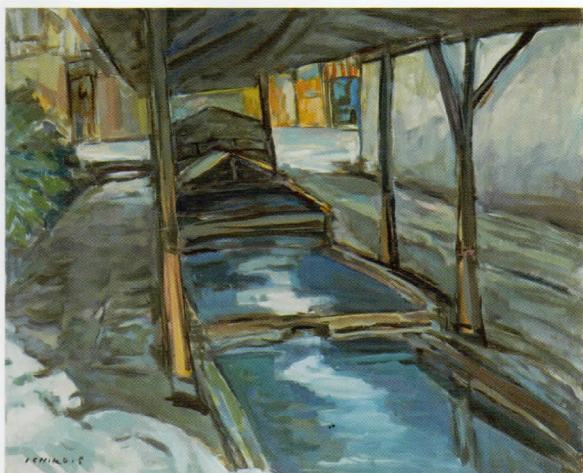
千葉 瑞夫さん(前萬鉄五郎記念館館長)
七田 篤則さん(岩手大学特美三回卒業生)



帰り路、松尾鉦山(長屋)の夕暮(油彩 F50) [パリ] サロン・ドートンヌ美術展受賞作品



冬の松尾鉦山跡地(油彩 F100)



大慈清水(もりおか100景)(油彩 F15)



中津川より中の橋周辺(油彩 F15)



ざくろ(油彩 F10)

佐々木 一郎 元岩手大学教授

SASAKI Ichiro



1914(大正3)年~2009(平成21)年。

1914(大正3)年、盛岡市に生まれる。1938(昭和13)年、岩手師範学校専攻科卒業。1963(昭和38)年、一水会会員に推挙。1967(昭和42)年以降、盛岡市内の画廊を中心に個展を開催。1971(昭和46)年、第33回一水会会員佳作賞受賞。1972(昭和47)年、1973(昭和48)年、パリにて個展を開催。1975(昭和50)年、1981(昭和56)年、1982(昭和57)年、サロン・ドートンヌ(パリ)に出品。1994(平成6)年、サロン・ドートンヌ会員に推挙。作品制作を続ける一方で、岩手県内の小中学校・高校、岩手県立美術工芸学校、岩手県立盛岡短期大学美術工芸科、岩手大学学芸学部及び教育学部で教鞭を執るなど美術教育に携わってきた。1996(平成8)年、岩手大学名誉教授。また、萬鉄五郎作品の里帰りに尽力し、1965(昭和40)年から長きに亘る岩手県立美術館建設運動においては建設を推進する目的で発足した岩手美術協議会会長を務めるなど、岩手の美術・文化発展に大きな功績を残す。

佐々木一郎展

～岩手の雪に魅せられて～

